

自然の恵み

奥深き歴史

多様な文化



我らが愛する郷土



波田公民館

も く じ

1 波田地区の紹介 1

- 概要
- 人口と世帯数の動態
- 就業者の動態

2 自然 3

- 広がる二つの扇と河岸段丘
- 気候
- 自然災害
- 拓きたる親の力
- 豊かな生活用水

3 文化施設 4

- 福祉施設
- 文教施設
- 上高地線
- 歴史文化施設

4 産業 7

- 商工業の現況
- スイカの産地

5 歴史・民族祭事 8

- 波多神社
- 諏訪神社
- 三神社
- 安養寺
- 盛泉寺
- 仁王尊股くぐり祭
- 御柱・伝承行事

- 史跡（元寺場跡・若澤寺跡・
波多山城址・西光寺内城址）

- 石仏
- 遺跡
- 街道
- 波田の偉人

6 地域活動 12

- 学び続ける
- 楽しさを味わう
- 若澤寺史跡保存会
- あいさつ運動
- まちキレ
- 町会の活動

7 子どもを支える 14

- 学校応援団
- 子どもの育成
- 子どもを伸ばす

8 新しい動き 16

- 波田循環バス
- 波田まちづくり協議会

9 住宅・道路事情 17

- 住宅事情
- 道路事情

10 私の好きな波田 18

作成委員名簿 18

1 波田地区の紹介

概要

波田地区は、中世は波多郷といわれ、大野牧（大和朝廷が養馬を目的として作った牧場）の一部に属していたとされている。江戸時代は上波多村・下波多村・三溝村に分かれていた。明治7年に三村が合併し波多村が誕生した。昭和8年には、村の平和と水田の豊かさを希求して波田村となる。その後の人口増加と町制を敷く体制が整い、昭和48年に波田町となる。平成22年3月に松本市と合併し現在に至っている。

波田地区は、面積59.42km²、西側に主峰の鉢盛山を抱える山間地域が80%近くを占めている。その北東には標高900mから600m台の傾斜地が広がり、自然が作り出した河岸段丘と扇状地で形成されており、居住地区や耕作地となっている。北側には梓川が流れ、西側には黒川溪谷があり、下流域に豊かな水資源を供給している。



波田地区全景

居住地区には、国道158号とアルピコ交通上高地線が東西に走り、松本市役所波田支所、公民館、市立病院、保育園・学校関係、文化・体育施設、介護・福祉施設など、多くの公共施設を擁し、居住者にとって安心・安全で、心豊かな生活ができる地区となっている。



国道158号とアルピコ交通上高地線



松本市役所波田支所



松本市立病院



波田中学校

耕作地には早くから灌漑用堰が開削され、稲作が主体となってきた。現在も梓川頭首工で取水された水が、上海渡分水工で右岸幹線・波田堰・左岸幹線に分けられ、松本平西部地域にのどかな田園風景を作り出している。また、扇状地が作り出した豊穡な土質と土地柄による温度の寒暖差に恵まれているため、古くは養蚕用の桑や国土緑化計画をささえた苗木を、近年ではスイカ・リンゴなど多くの特産品を生産している。



梓川頭首工



スイカ畑と集出荷施設

豊かな自然の恵みと歴史を基盤とし、教育、文化、医療、社会福祉に多くの資財を投入してきており、子どもからお年寄りまでしあわせに暮らせる「まほろば」の地区となることを目指している。

人口と世帯数の動態

項目		明治7年	昭和8年	昭和48年	平成22年3月	平成27年2月
		波多村誕生	波田村に変更	波田町となる	松本市と合併	現在に至る
人口(人)	合計	3,362	6,773	8,961	15,330	15,645
	男	—	3,332	4,451	7,480	7,584
	女	—	3,441	4,510	7,850	8,061
高齢化率 (%)		—	—	—	23.7	26.9
世帯数 (戸)		760	1,288	2,174	5,396	5,867

就業者の動態

項目		昭和48年	平成22年3月
就業者 (%)	第1次産業	39.5	13.5
	第2次産業	27.1	28.1
	第3次産業	33.4	58.4

就業者の構成が、第1次産業（農林業など）から第3次産業（通信、金融、運輸、サービス業など）へと移行し急速に変化している。

2 自然

広がる二つの扇と河岸段丘

波田地区は、松本盆地の西部で梓川右岸に位置する。

最高地点は、木祖村・朝日村と接する鉢盛山の2447m（国土地理院 2014.3.26 閲覧）であり、北側には北アルプス槍ヶ岳を起点にした梓川が流れている。

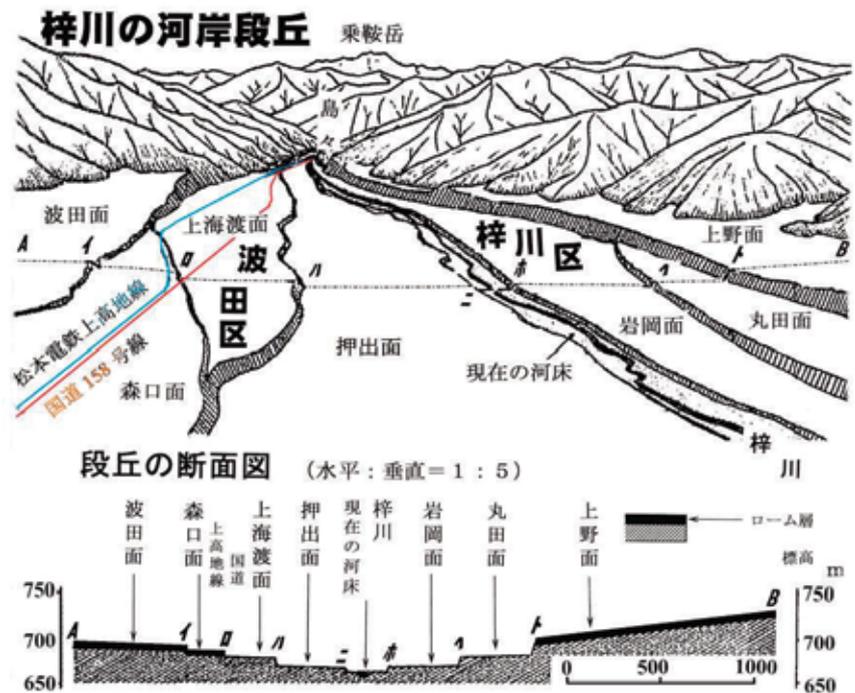
太古の時代、梓川は松本盆地まで流れ下ると、ここに大扇状地を形成した。そして、その後の地殻変動と梓川による浸食によって、4段の河岸段丘が形成された。

それは、下の段から押出面、上海渡面、森口面、波田面で、3つの高く急な崖をはっきりと見ることができる。

波田面の上部には、唐沢川と中沢によって形成された2つ目の扇状地(中下原～下原)がある。

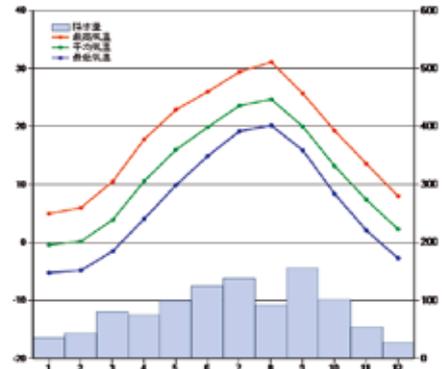
波田面と森口面には、波田ローム層と呼ばれる乗鞍岳の数千年前の活動による火山灰土が広がっている。

地区の8割は山地で、集落や耕作地があるのは梓川及び唐沢川と中沢がつくる2つの扇状地上の海拔約600mから900m台の地域である。



気候

気候は、夏と冬及び夜と昼の気温差が大きく、降水量が少ない内陸性(中央高地式)気候である。降水量は年間で1100mm程度であるが、標高が高いこと、北向き斜面であること、飛騨山脈から吹き降ろす北風(アルプスおろし)などにより、旧市街地域に比べ、気温が若干低く、降水量は若干多い。



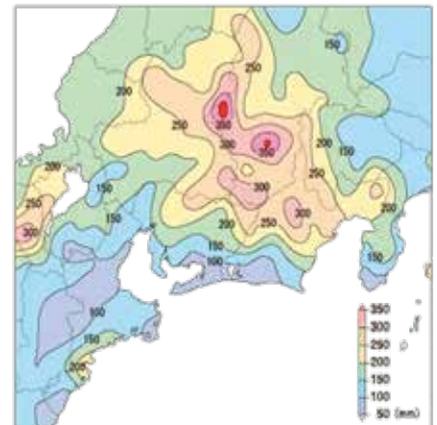
自然災害

忘れてはならない自然災害のひとつに、昭和58年(1983年)9月28日の台風10号による土砂災害がある。雨量は1日で300mmに達し、中沢の氾濫により11区の住宅が土砂に埋もれた。同じ頃、赤松地区でも土砂崩れが発生し、アルピコ交通(当時松本電鉄)上高地線が土砂に埋もれた。

現在、中沢上流には砂防ダムができ、上高地線は新島々(旧赤松駅)から島々間が廃線となっている。

もうひとつは、平成12年(2000年)7月4日、5日の雹害である。4日には大豆大、5日には最大でゴルフボール大の雹が、約30分にわたり降り続き、地面が真っ白になった。

これにより、収穫を控えたスイカやリンゴが壊滅的な被害を受けたほか、窓ガラスが割れるなどの被害もあった。



拓きたる親の力

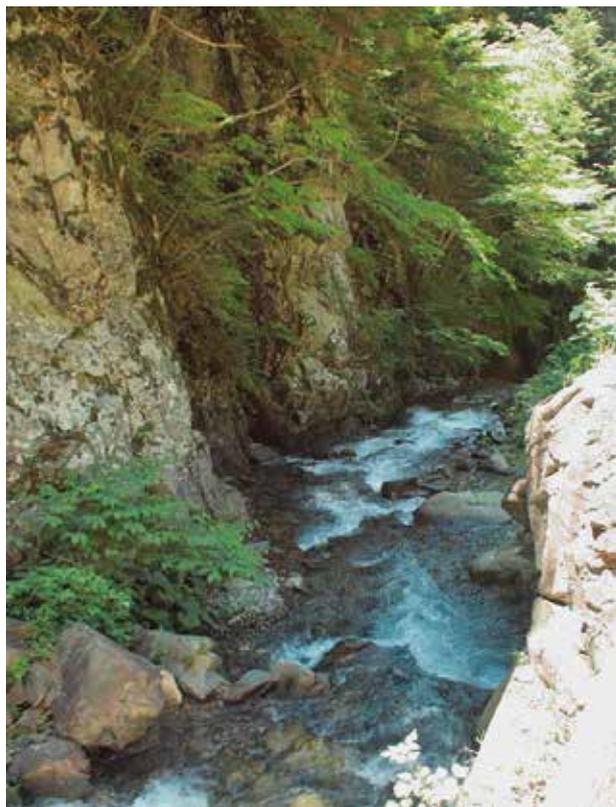
雨が少ない上に水はけが良い扇状地は、稲作には不向きな土地であった。しかし、古くから梓川の水を利用する和田堰・波田堰・黒川堰等の開削が行われ、19世紀後半には、広く稲作が行われていた。

扇頂部に位置する中下原では苗木生産の歴史が古く、カラマツ、アカマツ、スギ、ヒノキの苗木を、国内各地をはじめ海外へも出荷していた。

下原では水はけが良い土壌と寒暖差の大きい気候を生かしたスイカ栽培が行われ、全国的にも有名である。また、リンゴやナガイモその他野菜類の栽培にも波田地域の自然は適している。

豊かな生活用水

鉢盛山から北北東に伸びる尾根と北東に伸びる尾根への降水を集めた川が黒川である。年間を通して水量が豊富な黒川を始め、男女沢・中沢の清水は、波田地区の生活用水としても利用されている。



黒川溪谷

3 文化施設

福祉施設

市立病院

現在の松本市立病院は、昭和23年に波田村に設けられた診療所が前身である。

昭和26年に増築工事を行い波田病院となった。

昭和61年に現在地に移転し波田総合病院となり、その後増改築を行い地域住民の健康を支えてきた。

平成22年の松本市との合併により松本市立病院と名称変更し西部地区基幹病院となっている。

福祉センター

平成9年にオープン、健康づくり西部保健センター・デイサービスセンター・障がい者就労センター

(友夢、アップル教室)、NPO障がい児日中一時支援(シェイクハンズひかり)などが併設されている。

平成23年より「福祉ひろば」が開設されている。

近辺には、特別養護老人ホームちくまの・温心寮など福祉施設が多く集まっている。



福祉ひろばの健康教室

文教施設

文教施設として、地区内には保育園・小学校・中学校・高等学校までがそろっており、多くの卒業生を輩出してきた。

ほとんどの子どもたちが小学校、中学校時代を一緒に過ごし、未来を背負う若者が、勉学やスポーツに励んでいる。



地区に広がる文教ゾーン

保育園

昭和26年安養寺に開かれた託児所が前身で、現在は湊東保育園・中央保育園・ひがし保育園・みつば保育園の4園がある。

みつば保育園には、子育て支援センターの松本市波田こどもプラザが併設されている。

波田小学校

明治初期にできた三明学校・明智学校・至徳学校が始まりである。また、小学校松原分室(波田学院)の教育も担っている。

波田中学校

昭和22年の学制改革により誕生した。また、中学校松原分校(波田学院)があり特別支援教育を行っている。

信濃学園

県唯一の福祉型障害児入所施設で長野県が設置し、県社会福祉事業団が指定管理者として運営している。知的障がい児の生活及び養育の支援をしている。

波田学院

社会的不適応等生活指導などを要する児童・生徒が入所しており、自立に向けた、支援を行っている。

梓川高等学校

旧西部農学校と旧南安曇農蚕学校が前身で、昭和24年に統合し27年に県立移管した高等学校である。

上高地線

波田地区と松本市中心地を結ぶ大動脈として、地域社会の発展に寄与してきた。

大正10年に新村の上條信氏により敷設され、筑摩鉄道として松本駅から新村駅間が開通、翌大正11年島々駅まで延伸し、筑摩電気鉄道として営業を始めた。



上海渡（車坂）地区の鉄道敷工事の様子

歴史文化施設

役場旧庁舎



大正14年に建設された。当時としてはモダンな洋風の建築物であり、波多村の象徴であった。

サラダ街道西側のJA敷地にあったが、現庁舎建設後も解体せず、現在地に移築された。

現在一部は、5区町内会公民館として使用されている。また二階部分は諸資料保管場所として活用されている。

波多腰家住宅



波田堰を完成させた、波多腰六左の生家である。

母屋・納屋・蔵等は約250年前に建築され、今は国登録有形文化財になっている。

また、市指定文化財の樹齢200年以上といわれる「岩手山梨」が屋敷内にあり、この種としては最大級のものである。

旧島々駅



日本アルプス登山の拠点として重要な役割を担っていたが、昭和58年の台風による土砂災害で、上高地線赤松駅（現新島々駅）以西が不通となり廃線となった。

その後、駅舎は新島々駅前に移築保存されている。

官林のなごりを残す波田小学校松林



官林赤松は小学校敷地内に当時の面影を残している。

大正時代までは森口から湊東に及ぶ広大な松林であった。

現存する松林の中には、樹齢200年を越す大木もある。

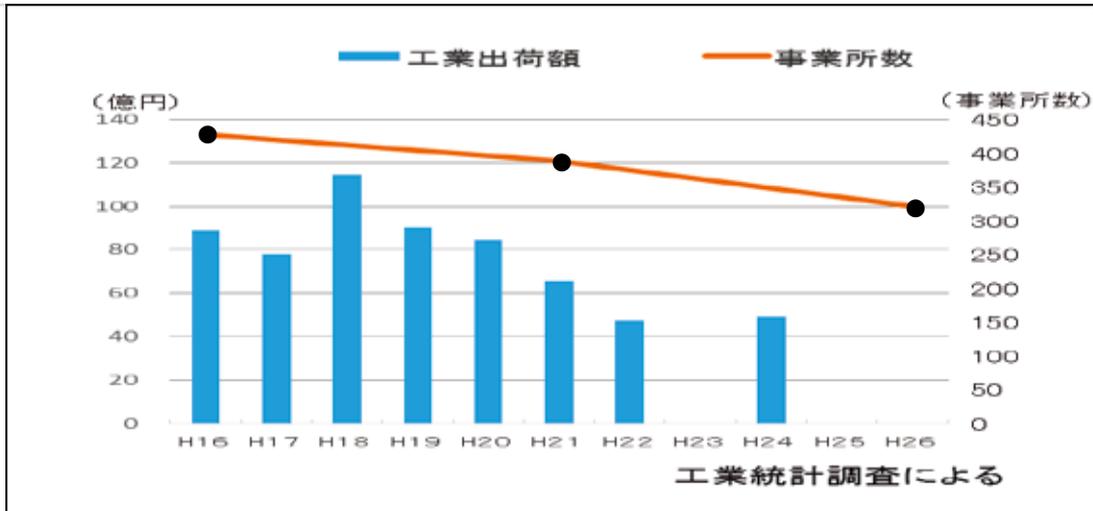
小学校松の緑を守る会や学校PTAで大切に守っている。

4 産 業

商工業の現況

商業においては、波田地区の近隣に大型商業施設が進出し、後継者不足もあって、個人商店の廃業等が進んでいる。

また、工業においても受注先の海外進出が進み、操業維持、雇用の継続に腐心している状況が続いている。しかし、現在「地方創生」のもと、行政、商工会等の各種施策やコミュニティバス・地域循環バスによる買い物弱者等への取り組みなどを行い、地域振興、地域の活性化を図っているところである。



スイカの産地

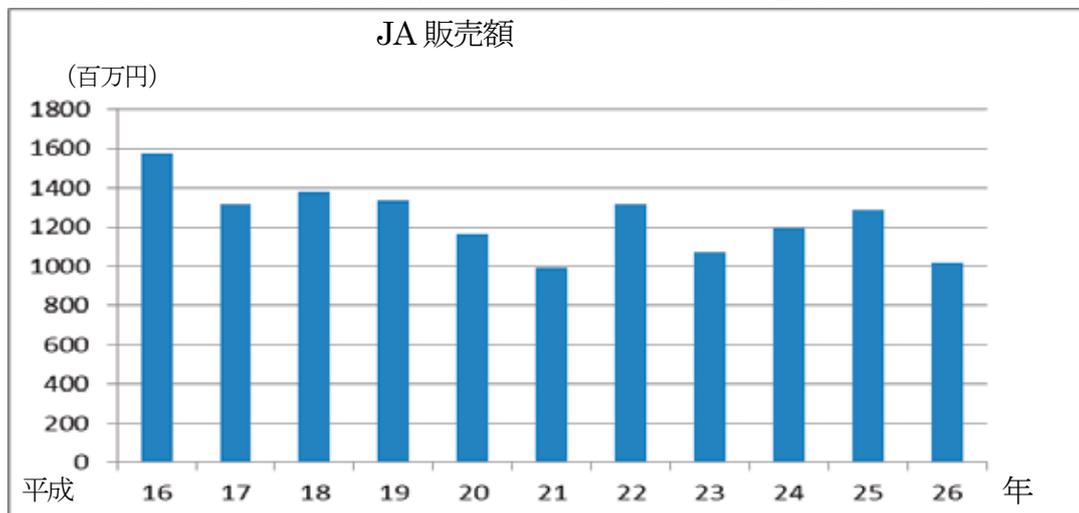
波田地区は松本市西部の標高600～900m台に位置し、全国的に比べても長い日照時間を誇り、昼夜の気温差が大きいため、糖度が高くシャリ感のあるスイカが生産され、市場から高い評価を得ている。

スイカ栽培は、昭和20年代後半から、下原地区を中心に始まり、昭和57年に旧波田すいか共選所が完成し、栽培面積が大幅に増えた。



平成4年にJA松本ハイランドが誕生し、平成8年には銘柄が統一され「JA松本ハイランドすいか」の銘柄が誕生した。

平成10年にはハイテク選果機を完備した新共選所が完成し、空洞や形状判定がより正確になり、高評価につながった。また、平成18年には、内部品位センサーを導入し、より一層品質が高まった。



5 歴史・民族祭り

波田地区には、波多神社・諏訪神社・三神社の三つの大きな神社があり、9月に行われるそれぞれの例大祭では舞台（山車）の曳航や浦安の舞いが奉納され、多くの参拝者で賑わっている。

波多神社

上波田地籍にある神社で、社伝によれば神亀5年（725年）頃に創建され、祭神は沙田神で、康治2年（1143年）に熊野権現を勧請し合祀したと伝えられている。現在地に移ったのは永正元年（1504年）である。境内には樹齢800年以上といわれる小檜の大木があり、市指定の特別天然記念物になっている。



社 殿



上波田(本郷)の舞台



淵東の子ども神輿と樽神輿

諏訪神社

中波田地籍にある神社で、創建は貞観5年（863年）で諏訪大社から勧請された。天治元年（1124年）に槻井泉社と合殿、当初は神洞の竜胆清水付近にあったが、天正年間、水害に遭い現在地に遷座されたと伝えられている。下波田の舞台は唐破風屋根に精巧な籠彫りの立川流彫刻が嵌め込まれ、中波田(中郷)の舞台は切妻屋根である。



社 殿



浦安の舞いの奉納



中波田(手前)・下波田(奥)の舞台

三 神 社

森口地籍にある神社で、諏訪社・春日社・八幡社の三祭神を祀っている。例大祭には、平成10年に山形村小坂神社から譲り受けた舞台を修復し、百数十年ぶりに八幡太郎義家公の御神像を飾り曳航が復活したが、近年は舞台の曳航に代えて樽神輿が巡る。



社 殿



修復された舞台



樽神輿

安養寺

安養寺は浄土真宗本願寺派の寺院で、本尊は阿弥陀如来である。宝暦3年(1753年)から宝暦11年(1761年)にかけて、河岸段丘の下段から現在地に移転された。

境内のしだれ桜・三本杉・高野槇は、市の特別天然記念物に指定されている。しだれ桜の満開時には寺全体が桜色に染まったようである。



盛泉寺

盛泉寺は天文21年(1552年)に創建された、曹洞宗の寺院で、本尊は釈迦牟尼仏である。廃仏毀釈で廃寺となった若澤寺旧蔵の仏像を始め、遺物を多く保管していることで知られている。

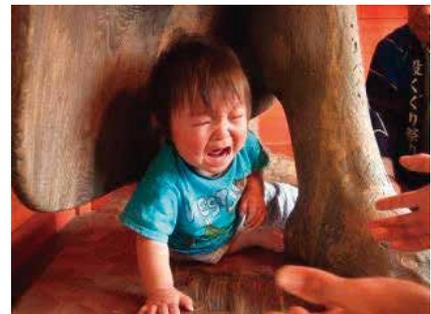
水沢観音堂は若澤寺にあった救世殿を移し、観音堂として明治20年代後半(1895年頃)に再建されたものであり、銅造菩薩半跏像・銅造伝薬師如来坐像は県宝に指定されている。山門前の線彫六地藏尊は若澤寺にあったものである。



仁王尊股くぐり祭

「仁王尊の股の下をくぐると、はしかが軽くすみ、丈夫に育つ」との故事にならい、約670年前に始まったといわれている。一時途絶えていたが、昭和63年地元の高齢者クラブが中心となり復活させ、子どもの健やかな成長を願って、毎年4月(第3土曜日)に行われている。

仁王尊(木造金剛力士像)は、鎌倉時代の元享2年(1322年)に、仏師善光寺妙海作の、ヒノキ材を用いた寄木作りの阿吽一対像で、昭和49年に県宝に指定されている。



御柱・伝承行事

御柱は上波田地区(上町・中町・下町)で行われている正月の伝統行事で、市の重要無形民族文化財に指定されている。小学生男子が中心となり祭りを伝承し、高さ20mの柱に竹と色紙で作った「おんべ」「やなぎ」を飾り付けて、厄除祈願、五穀豊穰を願って建てる。御柱を倒した後は、おんべを各家の玄関に飾って魔除けにする。

その他、12区町会では江戸時代から続く「鳥追い」や「お念仏」の行事が行われている。また、各町会では三九郎と呼ばれる火祭り行事も行われている。



史跡(元寺場跡・若澤寺跡・波多山城址・西光寺内城址)

元寺場跡

元寺場は白山山頂(1,372m)から少し下った標高1,250m付近にあり、若澤寺の前身と伝えられる。人工的に切り開かれた平地には、堂跡の礎石が残り、神仏一体で信仰された時代に、山岳信仰のためにつくられた「山岳寺院跡」と推測される。



元寺場の全体平面図

若澤寺跡

若澤寺は、奈良時代後期、天平勝宝年間（750～57年）に僧行基によって創建され、室町時代に山中の元寺場から水沢谷に下ったと伝えられている。江戸時代には、壮大荘厳な伽藍が整備されており、多くの参詣者が訪れ「信濃日光」と呼ばれていた。明治初年の廃仏毀釈により廃寺となり、多くの建物は取り壊されたり移築された。若澤寺にあった田村堂は、室町時代後期の作と推定され、造立当初は金箔が貼られ華麗な厨子であったと想像される。

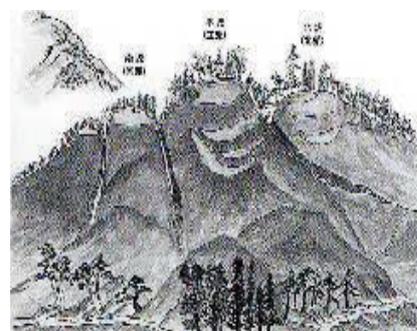
厨子内には現在も田村將軍の坐像が納められている。昭和28年8月、国指定重要文化財に指定され、上波田の阿弥陀堂敷地内に保存されている。若澤寺跡は地域の有志が「史跡保存会」をつくり保存活動をしている。



若澤寺の全容

波多山城址・西光寺内城址

波多山城は別名秋葉城とも呼ばれている。寛正3年（1462年）頃に、守護小笠原氏の一門 榎木市正一俊が波多郷地頭になり、波多山城と西光寺内城を築いた。飛騨・木曾方面の勢力や、対岸に拠点を構えていた西牧氏に備え、子息 紀伊守政盛まで二代が在城したといわれている。また、西光寺内城は別名榎木城ともいわれ、榎木氏の軍団が常駐されたものと推定されている。現在、波多山城址までは遊歩道が整備されている。



波多山城址の全容

石 仏

波田地区内には石仏、道祖神、石像、石碑など730体ほどの石造物が調査されている。

確認されている最古の碑は、室町時代中期、長祿2年（1458年）の若澤寺入口の参道脇にある供養碑である。また、盛泉寺参道には寛永12年（1635年）の「線彫六地藏」やパリでの拓本で有名になった「線彫一石六地藏」がある。石仏群として「下波田薬師堂・中波田新田・横町辻・上海渡」などに民間信仰の代表的石碑が造立されている。



線彫六地藏尊



六地藏尊と線彫一石六地藏尊（真中）



下波田薬師堂前の石仏群

遺 跡

波田地区内には葦原遺跡・麻神遺跡を含め、縄文及び弥生時代の遺跡が17か所確認されている。特に縄文中期後半の土器・石器などが多く出土している。

葦原遺跡は河岸段丘の森口面にあり、昭和39年から昭和54年まで12次の発掘調査が行われた。また、麻神遺跡は唐沢川の扇状地に位置し2回の緊急発掘調査が行われ、この付近からは縄文人の顔立ちを現在に伝える完形土面が出土し東京国立博物館に保管されている。

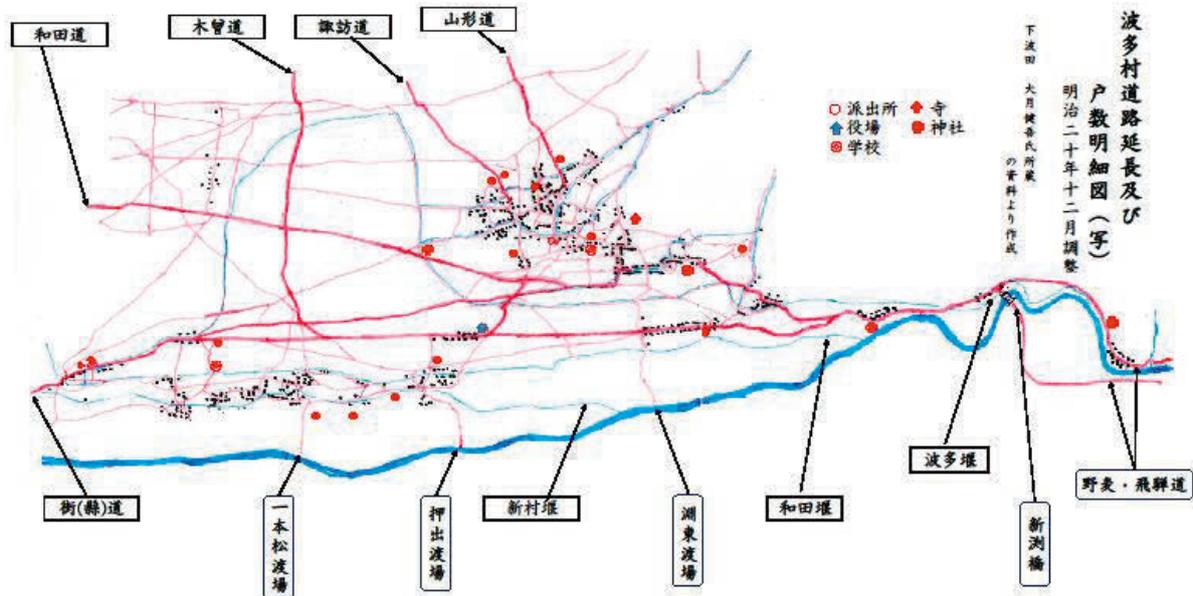


土 面

街道

古くから越中・飛騨と信濃（松本）を結ぶ街道といわれる飛騨道・鎌倉街道・野麦街道が波田地区を通っており、現在では道路位置が改変されながら国道158号になっている。

飛騨道・野麦街道は、富山湾で獲れたブリが塩加工され信濃へ運ばれた道であり、また、明治から大正にかけて諏訪地方の製糸工場へ働きに行く女工が通行した道としても知られている。「鎌倉街道」は、鎌倉時代に北陸の人々が鎌倉に至る道として往来したことからの呼称である。



波田の偉人

臥雲辰致



明治初期に「ガラ紡機（綿糸紡績機）」を発明した発明家である。天保13年（1842年）安曇野小田多井村（現安曇野市堀金）に生まれ、幼名は横山栄弥である。臥雲姓は、26歳の時から臥雲山孤峰院の住職をつとめたことに因む。37歳の時、上波多の川澄藤左の長女と結婚し、波多に居住しガラ紡機の製作に取り組む。明治6年に最初のガラ紡を発明して以来、幾多の内国博覧会に出展し最高の栄誉賞を受賞した。

「臥雲式紡績機」は評判が高く、全国に普及していった。「ガラ紡機」の名は、運転時に軽快に「ガラガラ」という音がすることから呼ばれるようになった。

和合恒男



大正・昭和時代の「農は国の本（基）」であるとする農本主義教育者である。明治34年（1901年）東筑摩郡本郷村横田（現松本市横田）に生まれ、昭和3年に波多村の県有地、赤松林の中に私塾「瑞穂精舎」を設立し、塾長として昭和4年第1期生を迎え「行学二道」を掲げ、実践教育を行う。

昭和6年には政治活動団体の「日本農民協会」を結成し、農本主義確立の運動を行なう。和合恒男の思想的影響力は、雑誌「百姓」（後に「ひのもと」）の創刊を通じて広く農民に及んでいった。

波多腰 六左



波田堰を完成させたことで知られている。天保10年（1839年）旧下波多村に生まれ幼名を米次郎と称した。

元治元年（1864年）父に代わり下波多村の庄屋になった六左は、寛政時代に計画した祖父や父の意志を受け継ぎ波田堰の開削に乗り出す。難色を示す松本藩や近隣諸村、明治維新後は役人を説得し、明治2年に波田堰の開削工事に着手。

明治15年には、延長約8.3kmの波田堰を完成させ、200haの開田を築いた。

現在波田堰は総延長35km、面積280haに及ぶ田園地帯を潤している。

6 地域活動

私たちの住む波田をより住みやすく、心豊かな生活が送れる様さまざまな活動が活発に行われている。

学び続ける

波田地区の生涯学習は、『学びの共同体「波田」』というあい言葉のもと、「楽しむ、続ける、高め合う」を目標としており、波田公民館を拠点に自分を磨く活動が活発に行われている。

クラブ数も130団体を数えその旺盛な意欲が波田の大きな力となっている。

毎年10月末には、活動の成果発表のための地区文化祭があり、学習成果を発表し、次の新たな取り組みに入っている。



ハーモニカを学んで12年



ダンスを楽しく



文化祭の展示

楽しさを味わう

さいさい祭

毎年7月末には、扇子田公園にて「さいさい祭」が開催され各種イベントや多くの出店があり、数万人の人出で賑わっている。

同時に波田地区と梓川地区共催の松本水輪花火大会が実施されている。



さいさい祭の賑わい

福祉ひろば祭り



福祉ひろば祭り

10月初めに福祉ひろば祭りが実施される。ひろばを利用している団体を中心に出店や舞台発表が行われ、大勢の皆さんが訪れている。年々賑わいが増しており福祉の輪の広がりがみられるようになってきた。

若澤寺史跡保存会

100人余の会員を中心に、草刈りや礎石の保護などの事業を行っている。

毎年、若澤寺に関わる講演会も開かれている。県元気づくり支援金を使い、樹木の伐採やパンフレット作成等を行っている。整備しつつある若澤寺跡を是非見てほしい。



整備作業



あいさつ運動

あいさつ運動

月に2回ほどであるが、小学生・中学生・まちづくり協議会の皆さんが、道行く人に朝のあいさつ運動を展開している。笑顔の輪が広がり明るいあいさつが方々で交わされている

まちキレ

まちをきれいにしようと、中学生は登校時のごみひろい、小学生は体育館周辺の草取り、住民有志は花植えや草取り等を様々な場所で取り組んでいる。

特に国道158号沿いの三溝フラワーゾーンには、個人や団体の大勢の手により、きれいな花が咲き、沿道を通る人や走る車の皆さんに好印象を与えている。



きれいな花が咲く三溝フラワーゾーン

町会の活動

夏には納涼祭などが行われ多くの住民が参加をし、冬には多くの町会で三九郎を行っている。その他、子どもの行事や町会行事が行われ、住民が親睦を深め絆づくりに役立っている。



そば打ち講習会



燃えろ燃えろ天までこがせ



地区主催の防災訓練

7 子どもを支える

波田の将来を担う子どもたちは、とても大切な財産である。子どもたちを支える活動や、生き生きと活動する子どもたちの様子を紹介する。

学校応援団 80余名が、子どもたちを多方面からサポートするため、様々な機会をとらえ活動している。



登下校の見守り



社会見学のサポート



学習支援

子どもの育成

子どもたちの健全な育成を目指して組織された「子ども会育成会」は、全町会が加盟している。



梓川での川遊び



はんごう炊飯



まが玉、ひも草履づくり

キャリアスタートウィーク（職場体験）は連続5日間、企業や商店、農家、福祉関係などのご協力により実施されている。中学2年生がそれぞれの事業所で仕事を体験し、「働く」とは何かを考える機会としている。



職場体験



夫婦堤音楽祭

住民有志のブナの会によって、夫婦堤音楽祭が桜の咲く頃に合わせ開催されている。小学校・中学校・高校の合唱部、吹奏楽部が参加し、会場いっぱいの400名程の住民との交流を楽しんでいる。

子どもを伸ばす

波田少年少女合唱団は平成18年12月に結成、小・中・高の児童生徒約60余名で活動している。平成26年5月に第62回ヨーロッパ青少年音楽祭（ベルギー）に日本代表として参加し、同声コースBカテゴリーで最高賞、特別金賞に輝くなど活動が世界まで広がっている。



ベルギーにて



サッカー練習



野球練習

スポーツを通じて心と体の健康づくり、そして社会のルールを学ぶスポーツ少年団が15団体ある。さらにいろいろなスポーツを体験し自分に合ったものを見出せるよう、総合型スポーツクラブ“はったこ”も誕生し、子どもたちの育成を図っている。

各町会では、子どもたちを育て、皆が仲良くなり、地区への愛着をはかるため様々な行事が行われている。



七夕納涼



流しそうめん



盆火



鳥追い

8 新しい動き



大勢の皆さんに利用してもらうことを願っての出発式

波田循環バス

平成24年度に、高齢社会が進むなかで交通弱者を地域全体でお互い様の精神で支え合い、安心して暮らせるまちづくりを目的とした「波田循環バス」が走り出した。

経費は利用料と補助金で賄い、実績を検討しながら、よりよい運行を目指して4年目を迎えている。平成27年度からは、「波田まちづくり協議会」の一つの部会に移行され、まちづくり協議会の事業となった。

波田まちづくり協議会

平成22年松本市に合併した頃から、今までの行政依存型から脱却していかないと地域活動の行き詰まりや活力が失われてしまうこと等が懸念され始めた。平成24年の町会連合会内でそのことが検討された。その結果は、「地域課題や今後のまちづくりを進めるためには、主体と成り得る住民組織が必要である」であった。

これを受けて12月には地区内17団体をもって「(仮称)波田まちづくり協議会準備会」が発足し、活動を開始した。



「波田まちづくり協議会」設立総会にて



さいさい祭で、努力してつくった枝豆を販売

足掛け3年、諸情勢・諸課題・事業・組織運営等の検討を重ね、ようやく平成26年6月に30団体の結束をもって、まちづくり協議会が発立発足した。

2年目からは、全体事業、各部会事業が策定され、「顔が見えるまちづくりから、顔を繋げる活動」へと一歩前に歩み出した。運営した事業を振り返りながら、より多くの住民に参加していただけるような事業への充実が望まれる。

9 住宅・道路事情

住宅事情

波田地区には国道158号、アルピコ交通上高地線、県道塩尻鍋割穂高線などが走り、交通の要衝に位置し、松本市のベッドタウンとして住宅の建設が進んでいる。しかしながら、水田・果樹・苗圃等の農地としての利用面積が多くあり、農産物の生産が盛んなところでもある。そのため、土地利用区分を策定した秩序ある開発や、利便性の良い土地に対する有効利用の策定が必要となってきた。

松本市との合併を期に平成26年11月、旧松本市内と同様の規制を行うべく都市計画条例に基づく整備を実行することとなった。

それにより市街化区域、市街化調整区域と明確な区分けを行い、住みやすく、また事業継続、営農等に支障のないよう線引きされることとなった。



桃団地付近

道路事情

松本市から岐阜県に入る国道158号は、物資流通、観光路線として交通量も多く、特に連休時や夏季においては渋滞が頻繁にある。さらに、国道に面した小・中学校の登下校には子どもたちの脇を車両が通過するという状況が続いている。

現在それに対処すべく、奈川渡ダムより松本側へ2.2 km、波田赤松地籍より三溝地籍までの国道158号バイパスの工事が進められており、早期の竣工が望まれる。

また、中部縦貫道路の一部として、長野道神林地籍より分岐をして波田までの自動車専用道

の早期着工も待ち望まれるところである。合わせて、当地区を南北に走る県道塩尻鍋割穂高線は道路幅が狭く、交通弱者が安全に往来できる道路整備が切望される。



158号バイパス 押出交差点

10 私の好きな波田

波田小学校6年 平林 大悟

上波田神社の御柱は、豊作と厄除けを祈念する伝統行事です。ぼくたち、小学校4～6年生と地区の大人が中心となって、12月中旬から1月上旬に行います。ぼくは、伝統あるこの地区の行事を大切にしていきたいです。



御柱づくり

波田小学校6年 松尾 俊介

小学校6年では、歴史の勉強をします。そのなかで、波田の歴史も学習しました。波田では、土で作った縄文時代のお面が発見されたそうです。ぼくは波田の五千年前のことを知り、改めて波田のよさを見直しました。まだ秘密が、たくさんありそうです。



波田中学校3年 太田 温土

私たちの暮らす波田は、農産物など自然の恵みが豊かなところです。春には雪解けとともに小さなふきのとうが芽を出し、そのうちにいたるところで桜が咲き乱れます。

夏には、名産のスイカが収穫されます。

秋には、水田が一面に黄金色になり、稲の絨毯が見られます。畑にはりんごの実が膨らみ、紅葉の頃には、磨くと真っ赤に光るりんごが収穫されます。

そして、冬には一面真っ白な雪景色も見られます。

このように波田には、春夏秋冬、どの季節にも魅力があり、田畑の色の変化が楽しめます。

空気が澄んでいて、水がきれいな波田は、とても住み心地の良いところです。

これからも、この波田が美しい自然を残したまま、もっと魅力を増し、誰もが暮らしやすいところであり続けて欲しいと思います。



作成委員

氏名	所属	備考	氏名	所属	備考
波多腰 英文	まちづくり協議会	委員長	市川 進	学校応援団	
柿出 謙二	町内公民館長会	副委員長	倉谷 和芳	農業協同組合	
関 通喜	まちづくり協議会		上村 治	農業協同組合	
川手 弘行	町会連合会		三木 雅博	波田小学校	
若狭 登志彦	町会連合会		大月 晴嗣	波田中学校	
大月 章	町内公民館長会		百瀬 眞治	波田公民館	
中野 悦實	商工会		山本 哲仁	波田公民館	



～自然の恵み 奥深き歴史 多様な文化～
我らが愛する郷土
波田地区地域学習テキスト

〈編集〉波田公民館地域学習テキスト作成委員会
松本市波田 4417-1 ☎ 0263-92-2268

〈発行〉松本市教育委員会

〈発行日〉平成 27 年 9 月 30 日 〈印刷〉藤原印刷(株)